

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との連携が従来と比較すると、深めやすい環境になってきており、事業所のイベントへの地域の方の参加、地域の方への相談等を通じ、地域に対しての事業所の理解を更に深める取り組みを行っていくことが期待される。	地域での集まりに参加させていただく。	地域の行事で、季節ごとの催し物(夏祭り)や草刈り、花植え等に参加させていただき、情報交換の場を作り、地域との交流を交え、事業所の理解を更に深めていただけるように取り組む。 気軽に地域の方々が立ち寄れるように、職員自らが、地域の方々に歩み寄り、行事がある時は、直接近隣の家に出向くようにする。	12ヶ月
2			年間行事計画に、地域の方々が参加しやすいような企画を取り入れる。	9月に敬老会、10月に芋煮会があり、少ない人数ではあったが地域の方が参加していただいた。しかし、平日の為なのか、なかなかお年寄りの方は、ふきのとうまで歩いての参加は厳しい。その為には、休日に行事を行うことを企画することにより、より多くの方が、参加できると思われる。夏には、夏祭りを企画し、色々な出し物をして、無料で参加できるようにしたい。	12ヶ月
3	36	常日頃より言葉使いや、利用者本位の支援に関しての指導はされているものの、時においては職員本位の支援になっている場合もある。教育と同時に職員自らが気付くような方法での指導が今後期待される。	ふきのとうの理念の唱和を毎朝行う。	理念の唱和を行うことで、職員の意識を高める。	12ヶ月
4			研修や、勉強会に、積極的に参加する。	介護従業者として、技術向上も大事ではあるが、接遇がとても重要で大事である。研修での教育と同時に自らが意識を持つこと。 他事業所に研修に行き、どんな対応をしているか自ら気付き習得できるよう取り組み、意識向上に努める。 職員同志が、慣れ合いにならないよう常に言葉使いに注意することで、入居者様にも意識をもったかわりができる。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。